

派遣交換留学終了報告書

2004年8月

Contents

University of Wisconsin, Madison

留学前の準備

留学前の目標、目標設定

勉強、研究

勉強、研究以外の活動

留学費用

語学状況

困ったこと

アドバイス

University of Wisconsin, Madison

私が留学したウィスコンシン大学マディソン校(以下UW)は、アメリカ中西部北に位置するウィスコンシン州の州都マディソンにある州立総合大学である。生徒数は約4万人と非常に多く、留学生も世界各国から受け入れている。アジアでは中国と韓国からの留学生が多い。日本人留学生は数百人おり、MJA(Madison Japanese Association)というコミュニティ活動が盛んである。

全米でもUWの学術研究レベルは非常に高く評価されている。毎年発表される大学のランキングでは社会学と心理学、そして日本語が全米トップにランクされている。工学では農学およびバイオ分野の評価が高い。専攻分野であった経済学部は全米トップ10に入っている。そして多数のノーベル賞、ピューリッツァー賞の受賞者を輩出している。

スポーツ活動にも非常に力を入れており、昨年のSports Illustratedでは全米スポーツ学園都市NO.1に選出されたほどである。大学敷地内に7万人収容可能なアメフト用スタジアムを持ち、学生たちは毎年熱狂的に応援する。またアイスホッケー人気も非常に高く、ソ連との五輪での決勝戦の様を描いた映画「Miracle」に登場するアメリカ代表選手は、UW出身者が多数占めている。

UWキャンパスのあるWisconsin州は、実はキッコーマンの醤油と深い関係にある。キッコーマンの現社長はUWに留学経験があり、彼はキッコーマンとして初の海外工場をこのウィスコンシンに建てたのである。醤油といえばキッコーマンという程に世界的にも認知度は高く、ごく普通のスーパーでも手に入れることができる。

アメリカ人でもウィスコンシン州というところ？と首をかしげる者も多いほどマイナーな地域であるが、シカゴやミルウォーキーといった都市圏にも近く、そして何より治安が非常に良い。日本と同じ位と考えるとよいだろう。1998年には全米で最もすみやすい街NO.1にも選ばれている。厳しい冬の寒ささえ耐えることができれば、これほど魅力的な街はない。

東工大との派遣留学制度は10年以上前から続いている。東工大からUWへの留学者はこの10年間で毎年必ず一人以上だが、UWから東工大へは10年間でたった一人である。この格差が是正されないため、現在は派遣が見送られている。

留学前の準備

留学しようと思立ったきっかけ

親しい友人が留学した経験を語ってくれ、英語も伸びて一生の思い出にもなるし、人間的にも成長できる良い機会だと思ったから。学部の人に橋本大三郎先生の中国短期留学が非常に楽しかったのも、今度はアメリカに行こうと漠然と思っていた。

派遣留学制度を利用しようと思ったきっかけ

以上のように留学したいとは思っていたが、その資金も足りず、行くタイミングもなかなかつかめずに大学4年になり、卒論や研究で忙殺されてしまった。タイミングとしては大学院1年次に1年間という期間で行ける制度が魅力だったから。

ウィスコンシン大学マディソン校 (UW) を選んだきっかけ

アメリカを選んだのは、生まれて初めての海外旅行がアメリカで、その時に漠然ともう一度行きたいと思ったこと。学術研究においてアメリカが世界でトップであること。英語を身につけたかったことが挙げられる。

UWを選んだのは、授業料不徴収校であること、中西部という日本人が少なそうな地域であること、希望した経済学部が全米の大学の中でもランキングが高いこと、卒論研究中に偶然出会った論文の著者がUWの

教授だったこと、全米でも住みやすい街であることなど多くの理由が挙げられる。最も決め手となったのは、授業料不徴収校で日本人が少ない学校だったこと。

経済学部を選んだきっかけ

学部から社会工学を専攻している。学際的な分野のため、経済学も基礎レベルはひととおり学んでいた。研究室では計量モデルを使った統計学的手法を学んでいた。したがって一度は自分の専門分野から離れて経済学部で勉強し、外側から社会工学を見つめ直したいと思っていたから。理系でも取り組みやすい学問であるから。

留学前の目標

1年間の留学という時間的、金銭的コストと英語力、自分への付加価値をつけるといったメリットを天秤に掛けて、もう一度、

「そもそも学位が取れない留学をする必要があるのか？」を自分自身に問い直した。

メリット

- ・ 英語力と国際感覚が身につく
- ・ 経済学をもう一度学び、教養を高められる
- ・ 外国の友人や現地の日本人との出会い、人脈が広がる
- ・ 一旦専門から離れることで視野が広がり、自分の研究にフィードバックできる
- ・ 授業・研究以外にアメリカでやりたいことがあるーインターン、アメリカで就活
- ・ 学生時代の楽しい思い出づくり
- ・ 授業料を払わなくてよい

デメリット

- ・ 1年間留学だと卒業時期が延びる
- ・ 生活費、渡航費がかさむ
- ・ 1年間では中途半端ー十分な勉強もできないし、英語力も身につかないのでは？
- ・ 準備が大変ー下宿を引き払う、引越し、VISA申請など
- ・ 学位が取れない

そして、「留学するのならば、1年間で身につけることは何か、どうなればこの留学は成功だったと思えるのか？」を考えた。

目標設定

この留学は決してメリットばかりでないことが分かった。しかし、メリットの方が大きいと判断した以上、無駄に1年間行ってくるわけにはいかないので留学成功のボーダーラインを3項目設定した。

- I. 英語力ー現状ーTOEIC 700点、英語は片言のあいさつ程度
ー達成目標ーTOEIC 860点程度
ーLEVEL 1. 一人で海外へ行き、英語で楽しく自由に旅行できる
ーLEVEL 2. 大学院の講義を聞いてノートが取れ、適時質問できる。
ーLEVEL 3. 英語で研究に関して学会で発表し、議論ができる。効果的なプレゼンテーションができる。

LEVEL 1 と 2 の達成を留学成功のボーダーラインとした。LEVEL 3 は1年間では困難であると予想した。

- II. 就職活動ー現状ー官公庁か民間シンクタンク希望、国連に興味、インターン経験無
ー達成目標ー帰国後の就職活動を有意義にするため、アメリカでインターンと就職活動を行う。

インターンは国連機関かNPO系シンクタンク、もしくは政府系機関で探す。就職活動は日本人留学生を対象としたキャリアフォーラムに参加する。この経験によって英語力も鍛えられ、日本人アメリカ人問わず人脈も広がると考えた。

- III. 経済学の勉強・研究ー現状ー卒論で計量モデルを用いた。経済学の入門レベルは学部時代に少し学んだ程度
ー達成目標ーLEVEL 1. 大学学部程度のミクロ、マクロ経済習得
LEVEL 2. 大学院1年生レベルの理論を習得
LEVEL 3. 論文を1本書く。もしくは教授と共同研究

当初はLEVEL 3 と目標を高めに出発した。ただし、経済学をわずか1年間で完璧に習得できるとは思えないので、あくまでも帰国後の自らの研究テーマにフィードバックすることを念頭に授業を取る。

留学中の勉学・研究

アメリカの大学では、数字の大きさを授業のレベルを示す。例えば、「ECON101」は最も入門の経済学で学部1年生用の授業のこと。一般的に101—399が学部、400—800番が修士課程、700—990番が博士課程である。

授業は通常講義とDiscussionのクラスでひとつとなる。講義は東工大と全く同じ形式であり、DiscussionのクラスはTA (Teaching Assistant) と呼ばれる博士課程の学生が補修授業を行う。主に学生から出される質問を受け付けることと、小テストを行ったりする。

さらに、学期の真ん中では中間テストが行われる。

授業一覧 (専門)

ECON101—Micro Economics—ミクロ経済学入門。単語を覚えることも兼ねて。

ECON180 (聴講)—Labor Market Analysis—労働経済学の基礎理論。AD-AS。

ECON671—Energy Economics—エネルギー経済政策。線形計画法や現在割引価値に基づくCost-Benefit分析といった数学手法を学ぶ。後半は中間選挙中だった影響で、共和党と民主党のエネルギー政策。

ECON709—Econometrics I—計量経済学と数理統計学。実証分析のための理論をひとつおり学ぶ。最尤法やモンテカルロシミュレーションのGAMSによるプログラミングも。

ECON861—International Economics—国際経済学。貿易理論を中心に自由貿易と環境問題の影響の理論モデル。

授業一覧(教養、その他)

PSY160—Human Sexuality—心理学を一般教養として。

P.E—Soft Ball

—Basket Ball

—Martial Arts

ESL118—English as a Second Language—Non Native用の英語の授業。

UWにはエンジニアリングのための英語でのプレゼンテーション、ライティングを磨く授業がある。どの学部にも属しているように取ることができる。僕は経済学部の授業との兼合いで取れなかったが、友人が取っており、非常に有益だったと言っていた。

留学中に行った勉学・研究以外の活動

・語学学校WESLI

大学開始前の8月までおよそ1ヶ月間マディソンの語学学校で英語を勉強していた。渡米直後は挨拶も片言程度だったので、このまま授業を受けるのは不安だったから。費用は全て自分もちだが、世界中から語学留学に来る学生と仲良くなれ、非常に有益だった。日常生活レベルの英語は1ヶ月でほぼ苦勞しなくなった。

・ボストンでの就職活動

ボストンキャリアフォーラム (<http://www.careerforum.net/>) ではアメリカに留学している日本人学生を年一回ボストンに集め、日本企業を含め数十社が合同で就職採用活動を行う。英語でのResumeやCover Letterの書き方、面接は非常に勉強になるし、なによりアメリカに留学している日本人とも情報交換できて良い経験になった。日本人留学生は就職活動では不利である。最近は大分改善されてきたようだが、日本の就職活動期はアメリカの学期中であるし、何年も日本を離れていると日本のスタイルや考え方、話し方を忘れてしまい、多くが採用面接で失敗するそうだ。また、たとえアメリカで就職を希望していても、そもそも日本人の枠自体が少ない。アメリカで就職する際の強みは、英語を話せることではなくなりいかに日本(語)を知っているかが強みとなる。

・インターン

アメリカの大学生は夏休み中にインターンをするのが非常に一般的となっており、募集は大体2月から始まる。僕はワシントンDC周辺のシンクタンク数社にアプリケーションを送った。多くがResumeとCover Letter、そしてSample Essayを求めてくる。Essayは長いもので5枚程度、テーマは自分の興味がある分野とそのシンクタンクでやりたいことをまとめるといった具合だ。

書類選考の後、電話での面接があるとEmailで言われ、およそ一時間程度の面接。UWで勉強したこと、東工大での研究活動、そして興味のある分野について聞かれた。

結果は合格。派遣留学終了後に2ヶ月程、日米のEntrepreneurshipについての研究を行うことに。

インターンを行うこともそうだが、そのための情報収集やアプリケーションの記入、電話面接なども英語を鍛えるのに非常に役に立ったと思う。

・日本人会への参加

Madison Japanese Association (<http://www.sit.wisc.edu/~mja/ja/madison.html>) はマディソン在住の日本人も含めて活発に交流会を行っている。ここで知り合った日本人には大変お世話になった。

・著名人の講演会

経済学者ポールクルーグマンからケリー候補、ノーベル賞受賞者まで日本でも著名な数多くの方々がUWを訪れる。これらの情報はUWのWEB上で見つけることができる。多くが無料なので殆ど見に行っていた。

・ Conversation Partner、Bridge Partner

留学生の学生生活を助けるために留学生課が設けた制度。主に日本語学科か、日本に興味がある学生を紹介され、会話をするというもの。前述したようにUWの日本語教育は全米でトップであり、多くの学生が日本語を勉強している。この制度を利用して友達も作ることができ、情報交換もできる。

・ 国内旅行とヨーロッパ旅行

ThanksgivingやSpring Breakを利用して全米各地旅行した。特にレンタカーを借りてドライブ旅行は非常に楽しかった。アメリカでドライブするときには国際運転免許証が必要。ヨーロッパ旅行は冬休み期間を利用して、WESLIで知り合った友人宅で新年を迎えた。

留学費用について

1年間の支出の内訳は次のとおり。

・ 語学学校－授業料＋住居費＋食費 \$3,000 約35万

・ UW授業料（不徴収）

秋学期/2003 WVR-Exchange \$8,772.20

春学期/2004 WVR-Exchange \$9,569.55 合計 約200万

・ 住居費－大学寮2人部屋、バス、トイレ、キッチン付 \$5337 約55万

・ 食費－概ね東工大で使っていたのと同じだと思う。外食の値段はチップ入れると東京と同じ位。

留学先での語学状況

座学なら日本でもできる。わざわざ留学する必要もない。

英語で生活することは非常に苦痛であると思う。日本に帰ったとき、TV番組を意識しなくても理解でき、新聞は斜め読みしても分かることの嬉しさを痛感した。レストランの注文やコンビニのレジで緊張する、そういうささいな日常生活のひとつひとつが苦しいということが、本当につらかった。

帰国すると友人から言われることは、「映画は字幕無しでも分かるでしょ？」とか「1年行ってきたのだから、英語ペラペラで羨ましい」とかの類である。留学中、自分の英語が上手いとか苦労しなくなったとか思ったことは、最後まで一度もなかった。

そもそも英語で思い通り喋れる人が、この派遣留学には応募するとは思えない。日本に数台しかない何億円もする機械を使い、日々高度な研究・実験に明け暮れている人が、同じような事ができると思って留学先に行き、いざ英語で喋ると、「好きか嫌い」か「お腹がすいた」か「疲れた」程度しか話せない。日本語での言動は20代相応にもかかわらず、英語だと幼稚園児並みだというギャップに苦しむ。それこそ、アメリカの空気を吸えば英語が上手くなると思い込んでいる人は、本当に苦労するだろう。部屋に引きこもってパソコンの画面と向き合い、日本の友人と毎日チャットをする生活が関の山である。

TOEFL、TOEICの勉強よりも、留学前にUWへメールを英語で書いて送ること、現地の銀行で口座を開くこと、財布を失くした時に必死に探し聞きまわったこと、カードの再発行の手続き、ボストンでの就職活動で履歴書を英語で書いたこと、インターンの情報収集と応募用紙に記入したこと、電話面接で一時間必死に英語で面接したこと、友達と旅行に行って道を尋ねたこと、スタジアムに試合を見に行くこと、スーパーに買い物に行ったこと、レンタカーで車を借りたこと、レストランで注文すること、そういった日常生活のひとつひとつの方が、英語が身につくと思う。

留学先で困ったこと

・ クレジットカードなど財布一式を失くしたこと

・ VISAの返事がなかなか来なかったこと

VISAに限らず、アメリカという国自体が適当であると感じた。そして逆に言えば、かならず例外を認めてくれることが多い。例えば、ホテルの予約をメールでも返事が来なかったり、当日行ってみたら予約が入ってなかったりする。また、授業登録の時にすでに定員であっても教授にお願いすれば結構入れてくれたりする。日本と同じ感覚でいると態度とサービスの悪さにきれそうになる。しつこいくらい連絡をまめにすることが重要。

・ 英語全般

常に困っていたので。授業はICレコーダーで録音して後で聞きなおしたりしたが、あまり有効ではなかった。

・ Barに行くときのID

年齢が記載されているIDがないとお酒が飲めないばかりか、店に入れない。ごくたまに政府発行のIDでないと受け付けてくれない。

・ 冬は－30℃の極寒。雪景色は非常にきれいだが。

・ 着信でも料金を取られる携帯電話

・床屋、美容院で変な髪形にされる

友人に切ってもらっていたが一度だけChicagoにある日本人の美容師がいる所できってもらった。3ヶ月先まで在住の日本人で予約が埋まっているというから、他の一般的な美容院がどれだけひどいかは想像に難くないだろう。

派遣交換留学を希望する後輩へアドバイス

- ① 1年間留学することのメリット・デメリットを把握した上で留学するか決めること。
この留学にもデメリットはある。もし英語力を伸ばしたいと思うのであれば、本当に英語力が必要なのか？を良く考える。日本でも伸ばすことは可能ではないのか？など他の選択肢を挙げる。授業料が不徴収でない場合の授業料など金銭面は重要である。
- ② 留学先の日本人との付き合い方。
始めのうち、英語もろくにしゃべれず現地の知り合いもほとんどいないのであれば、まず日本人の在校生と仲良くすること。現地の情報を教えてもらったし、困ったときは色々助けてくれる。現地の日本人会の様なコミュニティがあれば必ず顔を出す。
留学する日本人には二つのタイプがある。日本人とは決して一緒に行動せず、英語のみで非日本人だけと仲良くしようとする者。または、授業が終わったとたん日本人同士で固まって楽しくおしゃべりしている者。前者の心構えはすばらしいと言えそうだが、僕は前者も後者も賛成しない。少なくともこの1年間の派遣交換留学で行く者にとっては、どちらも失敗例だと思う。日本人を避けてばかりいると思ったことが喋れないことのストレスと情報量不足に陥る。逆に日本人とばかり仲良くしていると、英語が身につかない。バランス感覚が重要である。
自分も日本人が少ないから中西部を選んだのだが、やはり情報量は圧倒的に現地にいる日本人留学生が多く持っている。そういう人たちに頼ること。
出発前には必ずHPを持っている現地の日本人留学生を探すこと。そこから必要な情報は殆ど得ることができる。
- ③ 日本製品どれくらい持っていくべきか、どれくらい手に入るか。
マディソン周辺で言えば日本食はほとんど手に入る。シカゴまで車で2時間あまりのドライブで日本食のスーパーMITSUWAもある。個人的に缶コーヒーが好きなのでまとめてMITSUWAで買い込んでいた。(アメリカ産の缶コーヒーというものは見たことがない。) MITSUWA内の朝日書店で日本の雑誌や書籍も多少高めだが手に入る。ちなみに僕の朝食ほとんどご飯と納豆・味噌汁だった。一度Amazonで日本から書籍を注文した。料金は高かったが、5日位で届いたので非常に便利だった。他にも富士山、コムも利用度は高い。
ノートパソコンは必需品だと言う人が多いが、UWに限れば決して必需品ではない。24時間の図書館で自由にデスクトップが使えるし(日本語の読み書き可)、ノートパソコンの無料貸し出しも行っている。もちろん持って言った方が便利ではあるが。
電子辞書は基本的には持っていくべき。事前に教授に連絡すれば試験中に使用許可を得ることができる。
国際運転免許証は運転が好きな人は是非もって行くことを薦める。現地で免許を取得することも可能だが、日本で既に持っているのであればわざわざ取り直す必要もないだろう。アメリカでの運転は非常に快適で楽しい。レンタカーは25歳未満には貸してくれなかったりAdditional chargeを取られたりするので事前に調べておくこと。
- ④ 勉強・研究だけが目的なら派遣交換留学は辞めるべき。
そういう人は正規留学で行った方がいい。1年間で学位が取れない制度なのだから。ただ、知り合いでUWに派遣留学し、帰国後日本の大学を中退、UWに正式に入学しなおした人もいる。
派遣留学終了後に行った日本での就職活動の感想を話すと、UWに1年間留学していたことは、非常に高く評価されたように感じた。勿論ただ行っていたからではなく、現地でインターンを得たこと、ボストンで就職活動したことなどで得た経験や英語力が評価されていたと思う。

付録：インターン@ワシントンDC

インターンは派遣留学とは直接関係のないことだが、これから派遣留学する人は是非挑戦して欲しいと思う。特に学生VISAは留学終了後の一定期間アメリカ国内で働いてもよいという許可を得ることができる。NYのテロ以降、アメリカで働くための審査自体が非常に厳しくなっているし、なによりビジネス英語を身につけるメリットは大きい。以上の理由で派遣留学後の就業体験を強く薦めたい。インターンと言っても、個人で直接申し込むものと団体を通じて申し込むものがある。ほとんどボランティアに近いものから有給のものまで様々だ。

他大学からUWに派遣留学で来ていた情報工学専攻の友人はプログラマーとしてインターン採用されていた。また、夏季に研究室の助手として有給で実験の補助を得ていた友人もいたので、とにかく片っ端から探してみるだろう。

僕は前述したようにワシントンDCのシンクタンクを選んだ。理由は大統領選挙が行われること、ワシントンDCという政治の中心に興味があったことだ。ワシントンDCでのインターンは毎年非常に人気が高く、

全米中からApplicationが大量に送られてくるらしい。したがって無給のインターンといえども倍率が高く、僕の応募した所はスクリーニングの後に電話面接で絞り込むという形式だった。

仕事は9時から6時までのフルタイム。一台のデスクとPCが与えられ、毎週ミーティングで進捗状況を報告。僕以外は全てアメリカ、イギリス人だったので英語を鍛える上では最高の環境だった。中身はプロジェクトの中でのリサーチ担当で、具体的には起業政策のアメリカや日本の比較研究を行った。さらにはWEBのUpdateやデータベース管理、E-newsの配信などの仕事も必要に応じて手伝った。3ヶ月を通してプロジェクトの一員として仕事を割り当てられたので充実したインターンだったと思う。

他にも大統領選挙のためのリサーチ活動として議会でのHearing、他のシンクタンクで行われたConferenceへの出席などは非常に刺激的な体験だった。DCには著名な学者、政治家が集まっているからだ。

付表) 留学生活年表

	EVENTS	COMMENT	大学(院)授業、ゼミ
2002年8月	大学院入試。		研究室ゼミ
2002年9月	UWから東工大に留学している学生と知り合う。UWIに留学していた先輩と会う。	UWの留学コーディネーター、教授にメールを送り始める。	研究室ゼミ
2002年10月	学内選考内定。	2/2だった。友人もかなり海外に留学が決まった。	専門1科目、研究室ゼミ
2002年11月		TOEFLを受け始める。来年の3月くらいまでに3回受けた。	*
2002年12月	マディソンの語学学校WESLIに通うための申請を出す。		*
2003年1月	UWの日本人会の方たちと東京で会い、お世話になることを挨拶。	卒論で留学関係のことまで手が回らなくなってくる。	*
2003年2月	卒業論文発表会。バイトを辞める。		*
2003年3月	卒業式。卒業旅行。	卒業旅行で英語のできなさを改めて実感。	なし
2003年4月	大学院入院式。VISA申請に米国大使館へ。航空券申し込み。	語学学校からACCEPTの書類が届く。	専門3科目、副専攻1科目、研究室ゼミ、英語1科目
2003年5月	前期授業の調整をする。大学院の後期からの休学届け。奨学金の用途目的を留学用に切り替える。語学学校の前払いの小切手を送付。	UWからVISA関係の重要書類が届く。レポートはアメリカからメールで送ったり、授業は出なくてもよいといった特別措置を先生方に親切に取り計らってくださりありがたかった。	*
2003年6月	下宿を引き払う。携帯解約。F-1VISA取得。留学出発	出発の3日前位に取得。大使館に数日通いつめた気がする。	*
2003年7月	語学学校に通う。誕生日を祝ってもらう。シカゴ旅行。独立記念日の花火大会	語学学校の宿題に四苦八苦。寮のコーヒーが不味くてスターバックスに毎日通っていた。日本食ばかり食べていた気がする。	語学学校、英語のみ
2003年8月	語学学校に通う。留学コーディネータと教授に会う。NY、バッファロー、ナイアガラ旅行	毎日湖畔のオープンバーに友達と飲みに行く。大学の夏講義に聴講生として聞きにいっていた。	語学学校、英語のみ
2003年9月	大学寮へ引越し。学校が始まる。	始まった当初はクラスと図書館と寮の部屋を往復する毎日だった。ベースを掴むのに苦労した。	計量経済学、国際経済学、ソフトボール、バスケットボール、ESL(英語)
2003年10月	財布をなくす。ポストンでキャリアフォーラム、就職活動を経験。ハロウィン仮装。ポールクルーグマンUWIに来校。	クレジットカードとキャッシュカード、UWと東工大の学生証まで失くす。中間試験での疲れもたまり、体調も悪く、アメリカ留学で一番つらい10月だった。キャリアフォーラムではアメリカの日本人留学生の就職の実態を知るいい機会だった。	*
2003年11月	ミネソタ旅行。	氷点下の気温に。外に出たくなくなってくる。ミネソタ友人宅でお祝い。雪の中露天風呂に入った。	*
2003年12月	シカゴ旅行。ヨーロッパ旅行。米→独→伊→西	期末試験が終わり、シカゴでクリスマスを祝う。一人で海外旅行。英語だけでやっていると実感できた。	*
2004年1月	続ヨーロッパ旅行。西→仏→日本帰国。大学春学期が始まる。MJA新年会	西の友人宅で新年を迎える。独の友人宅に荷物を取りに戻って帰国。	ミクロ経済学、エネルギー経済学、マーシャルアーツ、心理学
2004年2月	凍った湖を横断する。インターンシップの応募。サンフランシスコテクニカルキャリアフォーラム。	氷点下30度を記録。ありえない。	*
2004年3月	ラスベガス、グランドキャニオンドライブ旅行。	アメリカで初めてのドライブに戸惑う。	*
2004年4月	インターンシップ面接、合格。民主党候補者が大学に来る。	シカゴでTOEICを受けた。留学前よりも120点上がった。	*
2004年5月	ミルウォーキー、シカゴ旅行。	期末試験、5/18、日本帰国。	*